

岡山市立操山公民館 【みさおやま ふれあいカフェ】



◆ねらい（解決したい地域課題）

地域には高齢者世帯やひとり暮らしの高齢者、マンション住まいや新たに転入された人たちが増えています。そのため人間関係が孤立しがちで、より良い地域づくりのためには地域の中で顔見知りを増やし、つながりをつくる必要があります。

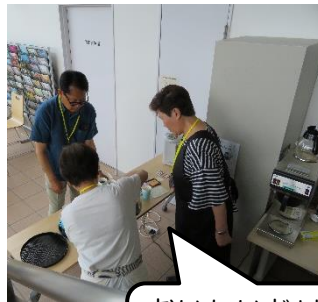
そこで気軽に話ができるお茶会を月1回開き、利用者や地域の人が互いに交流する機会を設けました。またボランティアによる運営で地域に根差し、地域に広がることもめざしています。そして各回季節や社会の需要に応じたテーマを決めて、学び合える機会もつくっています。

◆活動の様子

カフェ運営スタッフは地域のボランティアのみなさんです！



いらっしゃいませ！受付係です！



おいしいドリップ
コーヒーをどうぞ！



毎回、クラブ生手作りのお菓子が
コーヒーのおともです！

5/27「新聞紙でペーパーフラワーづくり」



お客様だった女性
が、次の会には得意
な手芸を教えてください
ました。

8/26「戦争体験談を聞きましょう」



9/30「琴と尺八お月見コンサート」



地域にお住まいで岡山空襲を体験された方、
三人のお話、岡山空襲資料館の学芸員の戦時
中の説明を聞きました。この日は市立操山中
学生もボランティアで手伝ってくれました。

◆効果（参加者の声等）

「ミニ防災講座に参加して」知る・備える・行動することの大切さを改めて学びました。近所の人と防災の話をしておくべきだし、自分に防災意識が低いことを再確認し、もっと関心をもとうと思いました。

「戦争体験談を聞いて」岡山の戦争の話は知りませんでした。体験した人の話を聞くと戦争を身近に感じました。改めて戦争をしてはいけないと思いました。（中学生ボランティア）

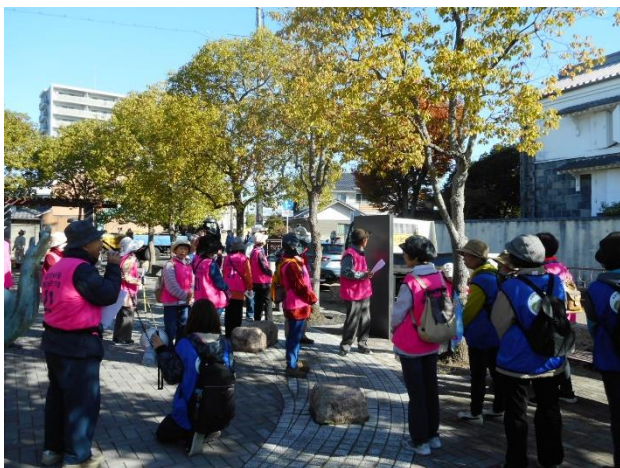
「七夕飾りを一緒に作って」小学生の小さい先生に教えてもらい嬉しかったし、初めての方とも折り紙を通して気軽に話ができました。

「琴と尺八ミニコンサートに参加して」昔よく歌った童謡をみんなと一緒に歌えて楽しかったです。子どもも知っている曲があり喜んでいました。近所の友達ができました。

「大人のための紙芝居と絵本」何十年ぶりかで紙芝居を読んでもらい懐かしくて心が温くなりました。

岡山市立西大寺公民館 西大寺のええとこ発見健康ウォーキング

平成 27 年度に東区保健センターと共催で、西大寺公民館エリア（4 小学校区）の「ええとこ（いいところ）」を盛り込んだウォーキングマップ「ええとこ発見図」を作製しました。平成 28 年度から毎年 1 小学校区を歩き、最終回となる令和元年度は「西大寺小学校区」を歩きました。



西大寺の町中を流れる西川には 12 の橋が架かっています。元町橋付近では「昔はこの辺りに銭湯があり、会陽の日は裸衆でにぎわっていた」という話を聞きました。



西大寺にアトリエを構え、多くの作品を残したベル・串田は、今年で没後 25 年となります。地域ゆかりの画家でありながら彼を知る人も、作品を眼にする機会も少なくなってきました。あらためて東区役所に所蔵されている彼の作品を鑑賞しました。



西大寺軽便鉄道の西大寺市駅跡で、当時機関士をされていた方からお話を聞きました。通勤など生活に密着した交通機関で、西大寺会陽にも多くのお客を運んだそうです。



- ・毎回参加させていただきました。
- ・たくさん西大寺のことが再発見できました。
- ・春のウォーキングコースにちょうど良いと思いました。

「健康づくり+まちの再発見」をテーマに、今後は各学区において講座を通して築いた新しい絆で、開催していく予定です。豊学区ではすでに地域と P T A で、平成 28 年度からウォーキング大会を実施しています。「ええとこ発見図」が、地域への愛着や人と人とのつながりを深める媒介としてますます活用されることを願っています。

「高松ふれあい元気クラブ」

●ねらい（解決したい地域課題）

当地域も他地区に負けない勢いで高齢者が多くなってきております。高齢者の健康維持の一助と一週間に一度の楽しみの場になっていけたらと思ってみんなで運営しています。

また地域の団体にも協力いただき栄養や運動の講座などを開いてもらい地域の連携を密にしています。

●活動の様子

毎回定番のあっすれ
桃太郎体操



自己紹介や脳トレ、時には
中学生に帰って英語なども



時には栄養委員と身体に
良い食事作り



認知症サポーター養成
講座も受けました。



●効果（参加者の声等）

「今日は楽しかったわあ。10歳若返ったみたいじゃわあ」、「時間はかかったけど、迷路が解けてうれしかたわ」、「友だちを誘って来たわ」、「かみさんに言われてきたんじゃ」など、自主運営を始めてもうすぐ丸5年、少しずつですが登録メンバーもふえてきています。

岡山市立足守公民館

足守中学校区 防災・減災 講座

◆ねらい（解決したい地域課題）

2018 年 7 月豪雨災害以後高まっていた「防災・減災」への意識がやや薄らいできているのが否めない。また、【自主防災組織の立ち上げ】をすすめる市の方針（年度末までに 100% を目指す）が、各单位町内会で大きな課題となっている。そこで、気象や避難などについて正しい知識を学ぶことを通じ、地域住民の、防災・減災意識を高める機会としたい。また、地域有志と一緒に活動する『足守中学校区防災会議』メンバーとともに、各单位町内会の自主防災組織の立ち上げ、活動のサポートに取り組む一歩としたい。

◆活動の様子

7/20「気象を正しく知ろう！大雨（豪雨）災害から身を守るには」



にわか雨・局地的大雨・集中豪雨の違いから、降雨のメカニズムなど気象に関するお話や自宅でできる情報入手のしかた、地域や身の回りの危険をハザードマップ等で確認しよう！などのお話がありました。

自分から率先して避難すること、命を守る行動をしよう！

9/8「自主防災会を考えよう！」



「最初は 30 点でもいい。毎年やっていくことで少しずついいものになる」

昨年の豪雨災害で一人の犠牲者も出さなかった総社市下原地区での、自主防災組織立ち上げのご苦労から災害当日の避難活動についてのお話を聞き、自分たちの町に自主防災会をつくるためには、どうすればよいかを話し合いました。



まずは組織を立ち上げて、走りながら問題を解決していこう！

10/1 には、足守中学校で HUG（避難所体験ゲーム）を行いました



このゲームを通して、私はいつも避難する側だと思っていたけど、中学生にもたくさんの役割があることを知った。これからは避難所を運営する側のことも考えたい。

災害時にはすごいたくさんの人が来て、それもいろんな事情をもって。運営が大変だということがよくわかった。実際に起こった時に、自分も役に立てることをしたい。

◆効果

- ・毎回、講師の話を聞いた後 WS を持つようにしている。自分で考え、意見を言うことを通じて「防災・減災」への意識も少しずつ高まっているように思う。自主防災組織の立ち上げについても、情報提供や相談支援、関連講座の開催など、今後も様々な形でサポートできればと考えている。

岡山市立建部町公民館

…背景…

建部町は、現在人口 5,500 人。高齢化率は 43%。人口は急速に減少し、少子高齢化が進んでいる。建部中学校は現在、全校生徒 94 名。人数が少ないことで一人ひとりが大切にされるという良さの反面、1 学年 1 クラスというクラス替えのない 3 年間、そして部活の種類が限定されているということなど、選択肢の少ない中学生時代を送っている現状がある。進学時には建部に高校がないことから必然的に地域外へ出ることになり、さらに就職を考えた際にも仕事の数や種類の少なさ、また高齢化による担い手不足などが要因で休廃業の増加も懸念される状況。

そうした背景から、

建部の中学生は

「なりたい大人像を描きにくい」

のではないかという

心配を抱いた。

…活動…

ひとつは「たけべ塾」。建部の魅力を様々な大人から学ぼうと、建部で活躍する魅力的な大人を招き、その生き方や価値観、建部への思いを聞くことで、中学生それぞれの中にふるさと建部への思いを形作ることが目的。



「たけべ部」の挑戦!!

ふなやと建部の未来をつくる!



…なりたち…

「建部の中学生には、様々な大人との関わりの中で、今の自分自身や未来の自分、そして未来の建部について考え行動できる場を、継続的に持つ必要がある!」という大人たちの声により、大人たちによる実行委員会が立ち上がり、2018 年 4 月より「たけべ部」が始まった。



地域を盛り上げたい地域の若手住民による実行委員会が主催する「たけべマルシェ」のリーダーの話を聞いた中学生たちが、自分たちもお店を出して地域の人、地域外の人をおもてなししたい、と企画をし、自分たちで調理した「たけべっ子カレー」を販売。

「ありがとう」「おいしかったよ」というお客さんの声に、「めっちゃ楽しかった!」と達成感を得た様子でした。

ゼロから始める女性の将棋

(ねらい) 女性への将棋普及



倉敷市は「将棋のまち」

倉敷市は、大山康晴十五世名人誕生の地であり、女流タイトル「大山名人杯倉敷藤花戦」や「全国小学生倉敷王将戦」が開催されるなど将棋にゆかりが深い場所です。

市内各所に子ども向け将棋教室はあっても、成人女性を対象を絞った教室は見当たりません。昨今の将棋ブームの中、興味を持った方が気軽に習いに行ける場所を作るため、当館では女性対象将棋講座を開設しました。

<将棋の魅力>

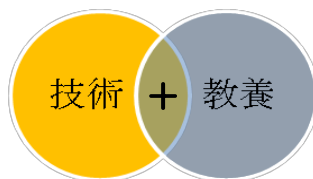
- ・年齢・性別・体力・場所を問わず生涯できる趣味である。
- ・頭脳スポーツなので、脳のアンチエイジングになる。
- ・考える習慣・集中力が身につく。
- ・礼儀・作法が身につく。
- ・勝負の厳しさを乗り越える心の強さが身につく。
- ・相手を敬う気持ちが育つ。

一人ではできないので相手の存在に敬意を払う。また審判がいらないため、負けた方が「負けました」と言って勝負が終わる美しさ。



★ 講座の特長

「指し方」と「教養」の
両方を勉強する



将棋の「指し方」の勉強だけでなく、将棋ブームの背景や、プロの世界について教えていただいたり、将棋の歴史を紹介していただく教養編の時間がありました。

将棋の精神や作法も学び、伝統文化としての将棋の魅力を感じる時間となりました。食についての回もあり、実際に棋士が食べたゆかりのスイーツも食べたりしながら、色々な角度から将棋に関する教養を深めました。

講座の流れ

駒の動かし方とルールを覚えましょう！



有利に進めるポイントをおさえましょう！



序盤・中盤・終盤での考え方を知しましょう！



実戦で使える格言を覚えて強くなりましょう！



対局しながら練習しましょう！

(効果) グループ化に向けて

春講座・秋講座と将棋講座を開講して、講座修了生全員が、これからもぜひ続けて受講したいとの感想をくださいました。受講生の中から、ぜひグループ化したいという申し出があり、現在グループの立ち上げを目指して自主勉強に励まれています。

将棋の楽しさが女性にも伝わり、今後の継続的な学びのきっかけを提供できたことは良かったと思います。

【くらしき市民講座】玉島図書館連携

聴いて楽しむ 大人の名作朗読会



9月29日(日) 14:00～15:30

講師：朗読「まきび・野の花」

ねらい：玉島（真備）地区で活動されている朗読ボランティアグループの方々に協力していただき、地域にゆかりのある作家の作品等を紹介し、図書館と連携しながら読書活動を推進する。また、地元で活動している団体を起用することで、真備の現状を知る機会とし、郷土愛を育み、地域住民の交流促進をはかる。



プログラム

「朝のリレー（谷川俊太郎）」

「蜘蛛の糸（芥川龍之介）」

「うた時計（新美南吉）」

「老残の悪夢（佐藤愛子）」

「悲しき暗号（横溝正史）」

「泥かぶら（真山美保）」

「生きる（谷川俊太郎）」

【講座を終えて】

朗読「まきび・野の花」の皆さんによる朗読会を開催しました。受講生の方からは、「情景が浮かんでくるような心のこもった朗読で、思わず作品の世界に引き込まれた。」という声をいただきました。

昨年の西日本豪雨災害以降、「真備を元気にする一助になれば」との想いで朗読活動を再開された経緯もお話され、自ら被災しながらも活動を続ける姿に、受講生の方々も励まされ、また真備の現状を知っていただくとても良い機会になりました。

また、玉島図書館にご協力いただいて、講座の後に、関連図書の貸し出しを行いました。絵本から小説まで、懐かしい本や新しく出会った本に触れ、読書推進を図ることができました。

清泉公民館

三世代交流ウォーキング大会 講座

◆ねらい

過疎化が進む中、世代間の親睦と交流を行える行事を実施することで魅力ある地域づくりを可能にする。

また、地元の素晴らしい自然と紅葉色に染まる季節を実感し郷土愛を育む。

◆活動の様子

地元町内会・老人会・育成者・子ども会 など 三世代の参加にて三浦公会堂からラビンの里までの往復するウォーキング大会を実施しました。

秋を満喫しながら三世代でラビンの里を目指しウォーキングをスタート



約1時間でラビンの里に到着。
休憩後持参のお弁当で昼食。

休憩後子ども会や愛育委員さんでゲーム
やビンゴ大会で楽しい時間を過ごす。



全員で記念撮影です。今年の参加者は108名でした。

◆効果

三世代の交流は例年同様達成できたと思います。過疎化が進む中、地元小学校では児童数減少が止まらない。（今年は1年生は6名全校数69名）その中で108名参加は意義深い。秋の紅葉を感じながら地元の自然も満喫できたことは小学生から年配の方々まで有意義な1日を記憶に残せたのではないかと思います。

玉野市立中央公民館

おいしい フレッシュジュースの つくりかた

ねらい

玉野市の主要駅・宇野駅から近い築港商店街には、ここ数年でいくつか新しいお店ができてい
るにもかかわらず、周知が十分とはいえません。そこで、3月にオープンした岡山発の有名フレッ
シュジュース店“マルゴデリ”の築港商店街店舗『マルゴデリウノミナト』店の方を講師にお迎え
し、フレッシュジュース作りの講座を開催。受講者同士の交流や健康・美容の興味推進をし、飲
食の楽しさを再確認してもらいます。

活動の様子



果物の皮の剥き方を
教わりました

好きな果物を選ん
でジュース作り



みんなで楽しく美味しく作れました。

- ・マルゴさんが玉野にオープンしたことを知りませんでした。
- ・色々教えてもらえて楽しく学べました。
- ・とってもおいしかったです。楽しく参加できました。
- ・家でも作ってみようと思いました。

(アンケートより)

効果

- ・参加者は健康や美容に興味のある方が多く、自然な食材のみを使用したジュース作りは高い関
心が集まり、多くの方が参加し幅広い年齢層で受講者同士の交流ができました。
- ・講座後、実際に何度か商店街を訪れてみたという方が何名もいらっしゃいました。
- ・今回の講座でジュース作りのコツやレシピを学び、家でも同じように作ってみるという方も沢山いら
っしゃいました。
- ・反省点として、アレルギーのお子様が色々な種類のものを飲めなかった点がありました。ご好評
につき1月に同講座の2回目を開催する予定ですが、前回の講座の内容に加え使いたい食材の
レシピの提案をすることにしました。

実践報告

総社市昭和公民館

(昭和っ子キラキラ事業「みんなおいでよ！夏休み子ども教室」)講座

◆ねらい

長い夏休みに子ども達が公民館に来て学校では学べない体験学習を行うことにより、地域の子育てや家庭教育の一助となり、子ども達が有意義な夏休みを送れるようにする。親の参加も歓迎し、親子の絆づくりもねらう。この事業では地元の中学生の社会参画を促すために職場体験中に公民館事業の企画、チラシ作成等を行う。さらに事業開催時に可能な限り中学生の参画を期待する。

◆活動の様子



◆効果（参加者の声等）

中学生が職場体験で募集のちらしを作成し、子ども達が興味を持つように工夫してくれた成果で、「親子で造形活動に熱中し、楽しく過ごすことができ、親子の絆が深まった。また、出来上がった作品を家庭に飾り夏休みの良い思い出としたい。」(造形遊び)「なかなか思うようにシャトルが飛んでくれなかったけど、ゲームも教えてもらえて楽しかった。」(バドミントン)「空気砲の煙のドーナツがすごく勢いよく飛んでびっくりした。」(不思議実験)「リコーダーと同じような指使いで陶器のやわらかい音色が素敵だった」(オカリナ)などの感想を頂いた。引率の親や祖父母とも一緒に活動をしてもらったので家族のふれあいもできてよかった。冬版として、「ケーキ作り講座」「甲冑作り講座」を計画している。

中学生の職場体験では、昨年の西日本災害の復興を目指した「頑張ってるよ昭和！災害復興祭」に千羽鶴を届けようという取り組みを企画し、当日企画した3名が全校生徒の熱い思いのこもった千羽鶴を災害復興祭実行委員長へ届け、現在は昭和公民館に展示している。

(日生地域) 公民館

(魚介さばき方) 講座

◆ねらい(解決したい地域課題)

釣りはするけどさばけない、魚をもらったけどさばけない、今更さばき方を聞けない、誰に聞いたらいいかわからない、日生に住んでいて時々そんな悩みに遭遇する住民の為の講座を開催する。

地元の旬の魚介を使うので、水揚げの時期、本来の姿、形、切り身にした時の色合い等も学べる。

◆活動の様子(写真等も入れて)



講師は近所の魚屋の次男で居酒屋の大将。

参加者は20代から70代の男女20名。

春(6月)は鰯

夏(8月)はイカ

秋(10月)はサンマをさばきました。

冬(1月)は牡蠣剥きに挑戦します。

「イカをこわいするのは、久しぶりなような。」
「ほんまじゃあ〜。こわいスルスルしたかいなあ。」
「すんだろうかな。」 「あはははは！！！」
「しゃーけえ、あんた 久しぶりじゃなあ・・・」
日生弁で会話も弾みながら、楽しい時間はあっという間。



さばき方を教わるだけでなく
調理方法も居酒屋風アレンジを。
盛り付け方法もおしゃれに。
家庭でも簡単に作れるけれど
腕を上げて帰っていただける講座です。

◆効果(参加者の声等)

- ・魚をさばく機会があまり無いので楽しかった。・実生活に活かしていく！
 - ・お魚は家でさばくことがないのです。また、この講座があったら参加したい。
 - ・自己流でしていたので、プロの方に教えていただいて勉強になった。・同じ魚でも調理方法で豪華になると思った。
- 日生で水揚げされる魚介はまだまだあるので、住民の期待に応えてまいりたいと思います。

(長船町) 公民館

(男の料理教室) 講座

◆ねらい(解決したい地域課題)

どこの地域でも必ずやってくる超高齢化。そして生きていく上で「食べること」は必須です。

そこで、料理を学び一人住まいになっても晩年を明るく元気に過ごそうと始まった男性限定の料理教室です。

最初は包丁
研ぎから
(^_^)



第1回 ご飯目玉焼き、味噌汁、簡単漬け物

第2回 うどん、天ぷら、デザート

第3回 カレーパン、コーヒー

第4回 冷やし中華、人参ケーキ

第5回 炊き込みごはん、味噌汁、茶わん蒸し

第6回 ミートパイ、アップルパイ、サラダ、スープ

<<習得技能>>
米の洗い方、炊き方
包丁の使い方

フライパンの使い方
鰹、昆布だしの取り方
エビの下ごしらえ、揚げ方
根菜の切り方
調味料の計量
煮干しだしの取り方
卵の使い方
みじん切り
短冊切り



◆事業の成果

料理を基礎から応用まで幅広く学ぶことができて、参加者から大変好評を得たようです。また、和気あいあいと楽しい雰囲気の中での講座であったので、参加者同士の親睦を深め合うことができました。アンケートを実施した結果は次の通りです。

<参加者からの声>

技術的なことに対して

基本的なことが学べて料理する楽しみがわいてきた。

家庭でも妻に代わって実践したい。復習して極めたい。

講座全般に対して

今後もこの輪を広げていただきたい。また参加したい。



最終日に
修了証をもらいました

実践報告書

赤磐市立 高月公民館

干し柿作り講座

♥ねらい(解決したい地域課題)

地域社会で伝承されてきた日本伝統の食文化の知識を持った高齢者から、次世代へと伝承する機会が少なくなっている現代社会。

テーマ『干し柿作り』を選定した理由は「自宅に柿木があるが、管理・収穫が最近できない」との声が聞こえてきたことから、地域活性化と課題解決、食文化伝承を目的に講座を企画した。

【事業内容】

和テイストの雰囲気を持つ高月公民館母屋。この特徴を活かし日本文化伝承にフォーカスしたいくつかの講座を企画している。その中のひとつが「干し柿作り講座」である。

地域の高齢者と話をする中、家に柿木が植わっていても手入れ、収穫ができなくなり、平安時代から続いていると言われている伝統文化「干し柿作り」ができないと嘆きの声が聞こえている。そこで、地域資源の無駄を無くし地域振興を目的に、公民館事業として柿木の剪定、収穫、干し柿作り等、一連の作業を主催講座で実施することにした。

【活動の様子】



大きな実を収穫のため
昨年の冬は剪定作業



子ども頃の干し柿は
実が小さかったなあ～



熱湯と焼酎の霧吹きで減菌処理
＋防虫ネットで衛生管理OK
～甘く変身するのを待つのみ～

【参加者の声】

- ・ 加工後の天日乾燥から白い粉をふかせる方法まできめの細かい講義があり良かった。
- ・ 天日乾燥時にコバエや虫が寄り付かないように防虫ネットが準備され、衛生面も考えられていて参考になりました。

黄金桃のシロップ漬け作り講座

●ねらい（解決したい地域課題）

地域の特産品である黄金桃の消費拡大、ひいては生産拡大を図る。

黄金桃は白桃などに比べ知名度が低く、かつ秋口という桃の食べ頃の最後の方に収穫、販売されるため、その消費量があまり増えないという課題がある。その課題を少しでも克服するため、腐りやすく賞味期限が短いという桃の弱点を解消する手段であるシロップ漬けを消費者に広げるべく講座を開催した。

今までのこの講座の参加者の声としては、黄金桃の味へのファンが多く、近所や親戚などの桃農家からもらった黄金桃が傷みやすいので、それらを捨てることなく長く味わいたいというニーズが強い。

●活動の様子（親切丁寧な指導を受けることができた）



シロップ漬けの容器の瓶を煮沸消毒する様子



シロップ漬けの容器の瓶のふたの仕方を学んでいる様子

●効果

主講師の他に備前県民局の職員3人と東備地区農業士5人が補佐役としてつき、1テーブル3～4人の受講者に対し、1～2人の補佐役がついて親切丁寧な指導を頂き、受講者が気軽に質問ができて、シロップ漬け作りに関する十分な理解を得ることができた。

赤磐市立山陽公民館

倉敷往来と道中文化財探訪

ねらい（解決したい地域課題）

岡山城から美作倉敷までの倉敷往来は岡山六官道の一つであり、その道中は魅力ある歴史的建造物や文化財に恵まれている。赤磐市内に残る倉敷往来の文化財を訪ねながらウォーキングするという事業を通して、郷土愛を育むことと健康づくりを同時に満たすことをねらいとした。

事業の流れ

古くから、赤磐市は、歴史的な文化財に恵まれていた。岡山城から美作倉敷に続く倉敷往来もその一つであり、岡山六官道に含まれる。平成27年から令和元年10月にかけて、赤磐市馬屋から赤磐市周匝までを8回に分けて歩いた。往来の史跡や文化偉人を訪ねる事業は毎回とても好評で、募集定員を上回る希望者が集まった。往来に散らばる史跡、文化偉人の作品、風情の残る街並みは参加者の心を古に誘った。参加者は、この講座によって歴史への向学心を大いに刺激され、また、郷土に関する知識を深めることができた。



効果

元学芸員の案内と詳しい説明により、地元の歴史への関心と知識が深まり、また、講座で散策中に会った地元の歴史通との会話で人と人との交流もできた。説明を聞いたり、学芸員に質問したりする参加者の顔から、赤磐の歴史に関する深い関心と、地元の先人への畏敬の気持ちをうかがうことができた。歴史を知ることで、これからの自分達の住むまちづくりに生かしていけるのではないだろうか。まさに、温故知新の効果を感じ取れる事業であった。

(天文教室) 講座

★ねらい(解決したい地域課題)

赤磐市が有する天文台・星空資源というポテンシャルを最大限に生かし、来場者を増やすことにより、地域への誘客促進や交流人口の拡大を図るとともに、青少年に地域の魅力について再発見してもらうように企画する。

また、11月23日から岡山県地域課題解決支援プロジェクト(天文・星空資源の活用による誘客推進)として、こたつ・iPad・双眼鏡を新たに購入し、2階バルコニーから観望する「こたつに入って星空を見上げよう」を立ち上げる。

★活動の様子

「50年生きてきましたが、星空や宇宙の事が
やっと分かりました。得した気分です。」
「時間を忘れるくらい、楽しい時間を過ごす事が
できました。」



口径40センチメートルの反射望遠鏡による天体観測。

「まるで宝石を見るような星の輝きステキ☆」



★効果(参加者の声等)

「実際の星空を見るのが楽しみになりました。」「満天の星を眺めながらのキャンプを楽しめました。」といった声から、はたまた「世界が変わって見えた。」など、壮大な感想まで、様々なメッセージをいただきました。やっぱり、星や星座の名前が分かると夜空を見上げる事がグッと楽しくなりますね。参加者の方々が、今後より星空や宇宙を身近に感じる事ができるようになることを願ってやみません☆



まに大附属ふるさと研究所

北房公民館講座「まに大（まにわ大楽の略）^{だいがく}附属ふるさと研究所」では、真庭市北房地域に息づく貴重な文化遺産を、地域の未来へ繋いでいくため、住民自らが文化遺産を調べ、活用方法を学び、そうした学習の成果を地域の子どもたちに伝えていく活動を連続講座として実施しています。

7～10月に開催した前期講座では「北房ふるさとセンター」（資料館）の展示リニューアルの構想づくり、11月から始まった後期講座では、市内有数の前方後円墳「荒木山西塚古墳」の調査を行いました。

地域住民が専門家(大学)や行政と共同で古墳を調査するなど、体験的参加型のユニークな学習の成果も踏まえ、学校で子どもたちに地域の文化遺産について伝えることもできました。

取組1：北房ふるさとセンター展示リニューアルについて考えました

^{だいがくせい}

^{きょうじゅ}

大楽生(講座生)は郷授(専門家)からの講義、ワークショップ、現地調査をもとに、北房の歴史が伝わりやすい展示にすべくリニューアル構想を全員で考えました。



取組2：荒木山古墳第2次調査を全7日間かけて成し遂げました

同志社大学の協力をえて、11月に荒木山西塚古墳の三次元測量、地中探査を行いました。大楽生自ら機械の設置や操作を行い、未解明の古墳の謎に迫りました。



取組3：小学校で子どもたちに北房の古墳のスゴさを伝えました

地元小学校の6年生児童を対象に、北房の古墳について、①教室での講義、②現地見学、③出土品見学を行い、地域に残る様々な古墳の魅力を解説しました。



★講座の効果

- ①ふるさとの歴史資源を文化遺産として認識する機会となりました
- ②文化遺産を次世代に残そう！と結束できました
- ③文化遺産活用の実践的な手法を、リニューアルという実践を用いて考えながら学びました
- ④文化遺産が新たな地域活性化に繋がるという意欲が芽生えました
- ⑤子どもたちに北房はスゴい文化遺産を持っているよ。これからも大切にしていこう！と伝える郷育ができました

また、最新機器を使用した古墳調査は、知的好奇心をともなった驚き・発見という体験を通して、文化遺産にさらなる愛着、守り育てていく意欲につながりました。

夏休み学習会

◆**ねらい(解決したい地域課題)** 学校や家庭でなかなかできないような体験をする。
涼しい場所でわからないところを教えてもらいながら夏休みの宿題をする。
高齢者や中高生など普段あまり関わらない学校や家族以外の人達と交流する。
自分たちが住んでいるところの自然を知ることによって地域愛を育む。



老人クラブのおじいちゃん達に道具の使い方を教えてもらって竹で、箸と食器を作っています。



もちろん、宿題もやります。わからないところは中高生が教えてくれます。



美味しいね。



コピー機の使い方体験。



きれいな美山川で、川の生き物を捕まえて調べました。

最終日は、お母さんたちによるカレーライス。



ピザ作り体験。ピーマン載せないのも自由。



特別支援の個室も用意しました。



◆**効果(参加者の声等)** ・川に入ったりノコギリを使ったりするのは、学校や家庭ではなかなか出来ない体験なので、こういった行事を企画していただいてありがとうございます。(小学校の先生) ・楽しかった。(参加した小学生) ・子どもの時に、こういう体験をしておいたほうがいいよ。(老人クラブの人)

こども食堂とコラボしためだかの楽校

◆ねらい(解決したい地域課題)

子どもの居場所づくりとして、めだかの楽校で様々な体験をし、こども食堂でめだかの楽校参加者以外の児童・生徒そして高齢者との異年齢、世代間交流を図り、自由な会話の中からふるさと愛を育み、地域を創る力を養う。

※めだかの楽校とは、中高生が主体となり夏休み・冬休みの期間中の学習支援や土曜日(毎月1回)の体験学習活動などを企画運営するものです。子どもの居場所づくり。

【9月の活動】

めだかの楽校(楽しい科学体験教室)とこども食堂

中川小学校児童43名

公民館では楽しい科学体験教室「牛乳パックがカメラに」、教室の後は・・・新たに参加した仲間たち、地域の方たちや保護者と楽しいこども食堂。



牛乳パックでカメラを！・・・ただいま、作成中！（バン格拉ディッシュのお友だちも・・・）



調理室はこども食堂の食事準備



出来たカメラで、ハイッ！パチリ！

今回も国際色豊か！

バン格拉ディッシュの親子4人参加

お母さんは調理、子どもはカメラづくり

3月には、英語で料理！

バン格拉ディッシュ料理教室を開催！

科学体験教室 19名＋中学生ボランティア2名

こども食堂参加者 49名(子ども25名、大人24名)



こども食堂風景

◆効果(参加者の声等)

- 楽しかった！おいしかった！ また、来ます。
- 久しぶりに、子どもとお話ができて楽しかったです。(高齢者の方の声)
- なかなか出来ない活動を公民館で行ってくれるので、喜んで参加しています。外で遊ぶことが増えて良かったです。そして、家では味わえない・・・友達、地域の方たちと食事をするのが楽しいみたいです。食事もおいしく、保護者や高齢の方々も参加しておられ楽しい雰囲気です。こんな活動をもっと続けてください。

館長から一言・・・西日本豪雨被災より10ヵ月後に復旧。やっと、子どもたちに笑顔が戻り、公民館に笑い声が響くようになりました。復旧・復興へのご支援ありがとうございました。